

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は、臨床心理士としてがん患者さんや患者さんのご家族の気持ちに向き合う臨床家です。臨床経験を重ねるうちに、自分が現場で試行錯誤してきたことを自分自身で研究して検証していかないと誰にでも役に立つような仕事にはならないのだということに気付かされ、研究を始めました。そして今は、臨床で人に関わりつつ研究する実践的研究者としての道を歩んでいます。

2. 助成研究の紹介

総合病院でがん医療に携わる心理職(特に若手)を対象とした専門教育について検討する研究です。現在、心理職が総合病院でがん医療に携わるための教育研修制度が十分に整っていないため、心理的支援の質が担保できないという問題があります。そのため、これまで研究で構築した心理職の活動モデルを今回は専門教育プログラムへと形を変えて、心理職のスキルアップを図りたいと思います。

3. 前年度からの研究の進捗状況

一昨年に初めて研究助成をいただき、がん医療の中で心理職がどのような働きをすればより良い心理的支援が提供できるかということモデル化した「活動モデル」を構築することが出来ました。今回はその活動モデルに基づいて、若手の心理職を対象に専門教育プログラムを作り、効果測定の方法を検討したいと思います。これにより、がん患者さんやそのご家族が良質な心理的支援が受けられる病院が 1 つでも多く増えることを目指してまいりたいと思います。

4. 全国の RFL 関係者に一言

全国の RFL の活動にご尽力されている関係者の皆様の思いと共に研究を進めてまいりたいと思います。